

すなこだ まどか
砂子田 円佳さん

株式会社マドリン 代表取締役

1983年生まれ。広尾町出身。帯広畜産大学で酪農を学びカナダに留学。2005年に帰国し実家の牧場で両親と共に酪農業に従事する。2007年6月、広尾町に「株式会社マドリン」を設立し牧場を経営するかたわら、農業女性の交流の場「SAKURA会」を主宰するなど、様々な活動を展開している。



北海道の酪農を盛り上げたい！

きっかけ

両親が酪農業を営んでいましたが、まさか自分が酪農家になるとは考えていませんでした。高校に入ってから、主婦ではなく“何か自分でやってみたい”と思うようになり、その頃はまだ明確ではなかったのですが、酪農に関係する仕事をしようと考えて帯広畜産大学で酪農の基礎を学び、その後、母の勧めもあってカナダで牧場経営などについて学ぶことになりました。酪農を仕事にしようと思ったのは、このときカナダで出会った牧場を営むご夫婦が、それぞれ役割を分担し、協力し信頼し合って働く姿をみたときです。女性経営者が、牛を我が子のようにかわいがっているのが理想に思えました。

苦勞

「株式会社マドリン」を始めたのは、父がもう一つ牧場を立ち上げようと言ったのがきっかけです。牧場経営を始めた頃は、「現場の知識も経験も少ない女性が一人で大丈夫なのか」、「すぐやめてしまおうだろう」と厳しいことも言われましたが、寒い冬の日も朝から晩まで作業を続け、2年、3年と試行錯誤しながら働いているうちに、周りの皆さんから暖かい言葉をかけてもらったり、少しずつ認めてもらえてきたことを感じていました。酪農の仕事は重労働ですし、一人で切り盛りするのは体力的にも大変でしたが、酪農の先輩でもある両親の支えや、皆さんの理解があってやってこれたんだと思います。

満足度

今は、夫と二人で約100頭の牛を育て、チーズの原料になる牛乳を生産しています。毎日一頭一頭のことを考えながら世話をし牛乳をいただく。カナダで出会ったご夫婦のように、牛をかわいがりながら夫と一緒に牧場を営んでいますので、最近は、「理想に近づいてきた」という実感があります。それと、農業を仕事にしている女性の悩みなど気軽に話せたり相談できたりできる“仲間づくり”のために始めた「SAKURA会」。毎年、全道各地から農業女子が集まってイベントを開催していますが、今年は60名と、年々参加者も増えて女性農業者の輪が広がっているのも、自分のパワーになっています。

これから

カナダでは、子ども達が自分たちの街のことをよく知っていることに驚きました。地域の皆さんに、広尾町の牧場のことをどれくらい知ってもらっているのか？酪農家だからできることは？そう考えたときに、少量でもいいので“広尾牛乳”をつくってみたいと思いました。牛乳を地元の皆さんに飲んでもらうことで、広尾の酪農を知っていただくきっかけになれば嬉しいです。そして、十勝にはまだまだ可能性があると思っています。今後十勝でも「酪農女性サミット」を開催して、全道各地で活躍する人たちのパワーを、十勝で酪農に従事する女性達にも感じてもらって、皆で地域を盛り上げていきたいです。

他の人がまだやっていないことにチャレンジすることは、すごく楽しいことだと思います。今、自分にできること、私にしかできないことを精一杯ベストを尽くしてやってみる。ちょっとでも良いので、一歩踏み出す勇気をもつこと、カラを破って進んでみるのが大切なんだと思います。